■海外トレンド情報――2025ミラノデザインウィークの魅力

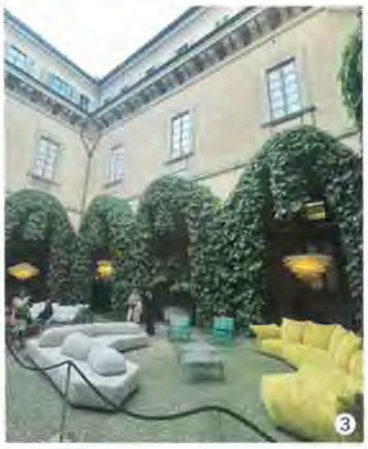
カラーは圧倒的に赤暖色系
家具デザインはサークルと丸みがトレンド

studio Ma 安藤眞代

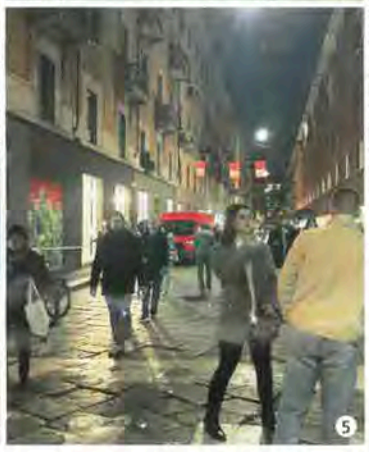
長年視察しているミラノデザインウィーク（MDW）。

今年はFiera Milano, Rho（ロー・フィエラミラノ）のミラノサローネ国際家具見本市本会場はもちろん、市内でのインスタレーション、展示会も様々時間をかけてたっぷり視察しました。

①Fiera Milano, Rho（ロー·フィエラミラノ）エントランス

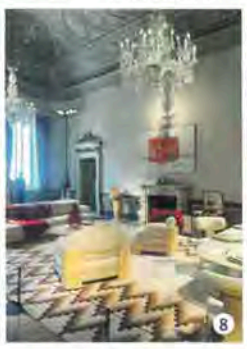


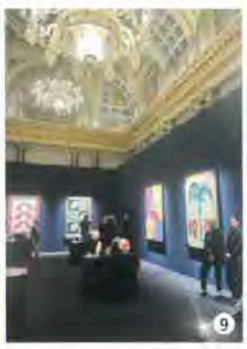
②③ブランドの歴史的なパラッツォ（邸宅）や、④⑤市内のFuori Salone（フォーリサローネ）の様子、夜まで賑わっています



ミラノデザインウィークがロンドンデザインウィークや、パリのMaison & Objet、他さまざまな海外インテリア展示会ともっとも違うといつも思うのは、その圧倒的な街を挙げての規模の大きさです。

近年会場とは別に、市内会場でのショールームでも行う海外展示会はさまざまあります。しかし、メーカーの力の入れ方（お金の掛け方も）が、MDWは飛び抜けてBIG！　その会場も日本ではあり得ないような、歴史的なパラッツォ（邸宅）や、宮殿、修道院、そして使用されている大学、美術館でのインスタレーションはその背景も加わり圧巻です。





⑥～⑨「ルイ・ヴィトン」美しいセルベローニ宮殿の背景と、熟練した技術を持つ職人たちの共創したアーティなコレクション

またここ近年、ラグジュアリーなファッションブランドや、ファッションザイナーが、自らのファッションのライフスタイル提案する、家具や照明、ホームテキスタイルも含めた「ホーム・コレクション」を展開しています。

「ルイ・ヴィトン」はここ数年、歴史ある優雅なセルベローニ宮殿での展示を行っていますが、ファッションブランドの展示は大変人気があり、インテリア業界だけではない集客も含めて、数時間並ぶ人気でした。

ルイ·ヴィトンが2012年から展開する「オブジェ·ノマド コレクション」は、美しいセルベローニ宮殿の背景と、熟練した技術を持つ職人たちの共創したアーティなコレクションが見事にマッチした展示会でした。

クラフトマンとの共創は、他の展示でも多く見られました。

海外のSNSでは大変注目度が高く、3時間待ちの長蛇の列だった「L'Appartamento by Artemest 2025」は、イタリアの職人技と、国際的に高く評価されている6つのインテリアデザインスタジオの視点を通してキュレーションされた、素晴らしい空間を創りあげていました。

19世紀の建築の傑作、パラッツォ・ドニゼッティを会場に、その建物が持つ芸術的遺産の物語が息づく空間魅力を、各デザイナーが最大限に活かし、デザインの美しさ、独自性、創造性を優雅に、イタリアの卓越性を象徴する芸術性と伝統を体感できる空間を作り上げていました。

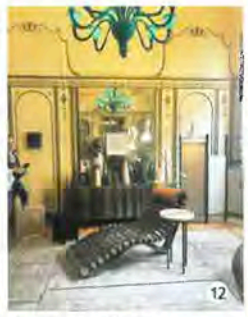
インテリア空間としては、この会場が芸術とデザイン性、クオリティと共に、今回の美しさBest! 一番心に響いた展示でした。

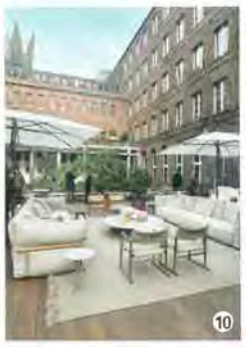
また、Osanna Visconti（オザンナ・ヴィスコンティ）アトリエ兼アパートメントでの展示新作テキスタイルコレクション「Hemispheres Collection」　は、Hosoo x Dimore Studioでの展示。京都・西陣織の細尾は、ここ数年積極的に海外展開を行なっており、今年はデザインディオDIMORESTUDIOとの光と影が交錯する幻想的なインスタレーションコラボレーション展示が話題でした。

日本のテキスタイルの伝統美と技術、イタリアの感性と技術が融合した唯一無二の空間を生み出していました。

Flexform（フレックスフォーム）は、歴史的なキオストロ・サンタンジェロ修道院の回廊を展示会場としたアウトドアコレクションを発表。雰囲気のある修道院の大きな中庭にゆったりと配置された、フレックスフォーム新作のキャメロットと多用途に使えるオアシスファミリーは、ブランドの屋外用ラインアップの象徴的な作品と並んで展示されました。

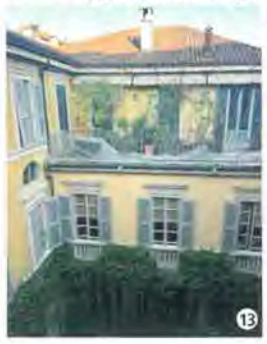
このように歴史的な場所でのインスタレーションは、その背景も加わり、大変壮大で美しく、ミラノデザインウィークの最大の特徴です。

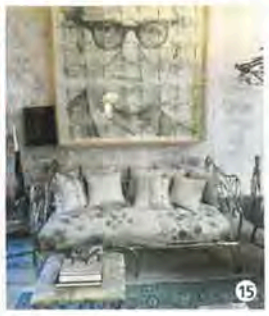




⑩Flexform（フレックスフォーム）の修道院での展示

⑪⑫L'Appartamento by Artemest 2025

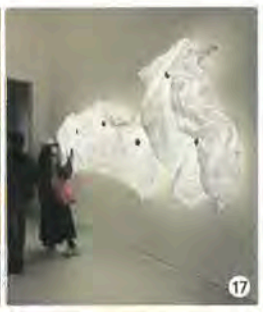




⑬⑭⑮Hemispheres Collection

さてFiera Milano, Rho（ロー・フィエラミラノ）本会場は、今年はエウルルーチェ（照明）の年です。FLOSやArtemide(アルテミデ)など大手ブランドメーカーが大ブース展示をする中、日本のポータブル照明ブランドAmbientec（アンビエンテック）は、既存コレクションを担当してきたデザイナー4名からアップデートを遂げたコレクションを発表しました。今年のエウルルーチェでは、日本から唯一のメーカー出展です。今回のデザイナーの一人、松山祥樹さんにお話しを聞くことができました。新作の「Barcarolle」は、大変美しく特徴のある照明で、MOOOIを率いるマルセルワンダースも思わず立ち寄ったとのことです。ヨーロッパの文化と歴史からのインスピレーションを受けて、クラシックとモダンが一つに調和したかのようなポータブルランプは、大変優雅なイメージを受けました。

（4面につづく）



⑯⑰エウルルーチェ（照明）の和紙風の照明

⑱⑲新作の「Barcarolle」とAmbientec（アンビエンテック）ブース

(5面から) ここ近年に見られる室内家具は、サークルや丸みのあるソファ家具や、デスクばかりで、角のシャープな家具はほとんど見られません。この傾向はまだ暫くは続くと思います。また、数年前から続く傾向で、アウトドア家具とインドア家具との境界線がなくなり、どちらでも提案可能な家具が増えています。張り生地には撥水生地だけではなく、リゾート感ある縄に見える、織り調リサイクル素材(樹脂)を使っているブランドも多く見られました。海外ブランドはもう大きくリサイクル素材、環境とは謳っておらず、当たり前にカンパニーとして環境責任と、持続可能な生産活動への配慮を重視した取り組みをしています。

カラーは、圧倒的に赤暖色系～シックなローズ系から、ブラウンレッド～ワインレッド～バーガンディと、商品だけでなくブースカラーにも多く見られました。

ガラス素材にも変化が見られます。透明なガラスより光が入ったとき柔らかになる、ボコボコとしたニュアンス感がある、すりガラス調のガラスのセンターテーブルや、照明がここ数年増えています。家具が丸みを帯びたと同じ、コロナ禍を経て人間に優しい、柔らかさが求められているからかも知れません。

十数年前からミラノサローネ、ミラノデザインウィークに行っていて、だんだん事前予約なしには入りにくい市内ショールームや、本会場さえも予約なしでは見ることが出来ないブースがかなり増えてきていると感じました。受付のQRコードで携帯で登録し、すべてアンケートまで打ち込まないと入れないとなると、限られた時間の中、かなりの時間が取られることに少し疑問を感じて仕方がありません。

とはいえ、予約をすると入れないコーナーに入場でき、優先的に説明、案内をして貰えると、商品への理解度が深まり、それもありかとも思ったりもします。

ミラノデザインウィークに行き続け、定点観測をする中、さまざまに形は変わってきました。毎年行く必要もないのではと思ったりもしましたが、やはり冒頭で書いた通り、その圧倒的な規模と街中のFuori Salone(フォーリ サローネ)の素晴らしさが、ここに毎年来てしまう理由です。

イタリアの歴史的なパラッツォ(邸宅)や、宮殿、修道院などの建物が持つ芸術的遺産を活かした魅力的な空間インスタレーション展示。そしてブランドやメーカーの感性と技術の融合した唯一無二の圧倒的空間は、ここミラノに来て、実際にその空間に立ってこそ感じる風景です。またその規模は、年々地域も増え続け、1週間あってもすべてを見ることは叶いません。しかし、自分の目で実際見て感じることを、持ち帰ることはできると思いますので、インテリアに携わる皆さまには、ぜひ一度訪れる事をお勧めいたします。

⑳歴史あるブレラ図書館でのインスタレーション

㉑ボルトローナ フラウの歴史的建物の美しいショールーム

2025 ミラノデザインウィーク まとめ

●カラー

ベースはナチュラルカラーが多いが、それに合わすカラーは圧倒的に、赤暖色系～シックなローズ系から、ブラウンレッド～ワインレッド～バーガンディと、商品だけでなくブースカラー(背景含む)にも多く見られた。

また、次に来そうなその暖色系の赤系に合う、グリーン系がちらほら出現。

●デザイン

家具の傾向は、小ぶりのものから大きなサイズ展開の物も、ソファ全般にサークルや角に丸みのあるものがほとんど。角のシャープな家具は、ほとんど見られない。丸みのあるソファに、丸のセンターテーブルや楕円、変形楕円を合わせるなど、大ぶりの家具でも全体にソフトなイメージになっている。

空間デザインは、Japanや東洋をイメージした展示や空間、素材(和紙、若しくは和紙風)が、少し増えている。

●マテリアル

ファブリックは、長く続くブークレ素材に、さまざまなカラーバリエーション。

異素材MIX。ナチュラルな自然素材を使った、パーテーション、チェア。

和紙素材(和紙風樹脂)と観られる、照明やマテリアルが多く観られた。

ガラス素材にも変化が見られる。透明なガラスより光が入ったとき柔らかになる、すりガラス調のテクスチャーガラスのセンターテーブルや、照明がここ数年増えている。

㉒～㉖ブラウンレッドからワインレッド、バーガンディと、商品だけでなく空間全体も暖色系にまとめられています

㉗～㉙ブークレーのカラーバリエーション

㉚㉛丸みのあるソファ家具

㉜㉝すりガラス調のガラスのセンターテーブル